

家畜保健所に、きつく説教 (続)

下の3まいの写真。うちに家畜保健所の先生方が来たときのように撮ったもので、それぞれ2007年8月、09年8月、11年2月と記録が残っています。毎回撮ったわけではないので、これ以外にも巡回はありました。

用件は毎回同じです。飼養管理について聞き取り調査をしつつ、異常がみられたら直ちに報告しなさい。そして、きちんと衛生管理をしなさいということでした。



ご指導いただく衛生管理の中身はといえば、まずは消毒の徹底です。それと同時に、外部との接触を極力遮断すること。野鳥はもちろん、人や車、ネズミやハエも入れるなどといった項目が並びます。(詳細略)

*

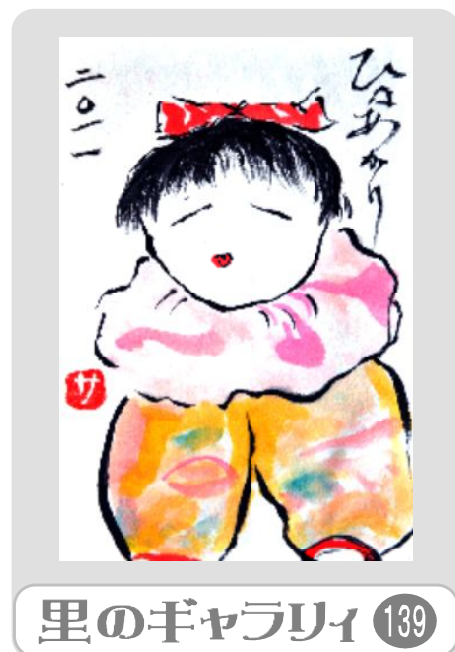
さて、いちばん上の写真。日陰で写りはよくないけど、注目いただきたいのは家保の先生たちの来訪の仕方です。普通に作業服と普段グツで、そのうえ

普通に車も敷地内に乗り入れてきたもんなあ。

後ほど詳述予定ですが、無農薬農業にこだわっている我が家では、たとえば生物を殺す薬剤を散布するのを消毒と呼ぶことに違和感を覚えるほうではあります。それでも、家畜保健所の先生が、こんなずさんな意識で巡回しているのかと驚きました。

養鶏・畜産における病気予防で最も気をつけるべきことは、同じ畜産関係者との接触なのです。その意味から、どこの養鶏場に立ちやってきたのかもわからない家保の人や車など、とりわけ危険視したい対象ともいえます。そんな基本中のキもわきまえない実態で、農家に衛生管理を徹底しろなどと言えるのかあ!?

と、腹を立てたことにして(※注)、その後、1回か



里のギャラリー 139

2回か、巡回・立入りを拒否したこともあったつけ。

*

2まいめの写真。先生方の足元を見てください。いちおう今度は長グツに履き替えてきたようです。不肖、現場での指導の甲斐があつのかな(´_`);

でもね、その長グツ。一体いつ、どこで履いたものなの? まさか、他の養鶏場にも立ち入ったままじゃないだろうね?

その、まさかだったので再び驚かされたというか呆れたというか。やっぱり先生方、来てくださらなくてけっこうです。病気をもちこむ可能性があるとしたら、あなた方が一番ですってば。おそれながら、きつのご指導申し上げるのは、これで何度目か。ったく!

*

3まいめの写真は、つい先日。道端で車を降り、使い捨ての防護服と手袋、さらに長グツにもカバーをかけての立入りでした。万全ではないものの、とりあえず、できうる限りの装備かなと容認しましょうか。

それにしても、このていどの水準に達するまで、いったい何年かかったことやら。家畜保健所を相手に衛生指導をしなくちゃならないんだから、世話がやける話ではあります(´_`);

(※注とともに、つづく)